

中高生14人の『まちづくりに関する提言と宣言』2014



1. 事業の趣旨	1
2. 実施概要	2
3. 講師・大学生サポーター	3
4. 活動状況（3日間で取り組んだこと）	4
5. 中高生からの提言と宣言	7
6. 運営組織・講師からの所感	21



次世代を担う子ども達が鹿児島市のまちづくりについて、アイデアを出し、夢を語り合う「子どもミーティング」を開催する。子どもの目線からの意見・提言を聴取して、若い世代の市民参画を推進するとともに、その意見を市政運営の参考とする。

かごしま子どもミーティング2014 提言と宣言のコンセプト

今年の子どもミーティングの「提言」は、参加中高生一人一人から提言をしてもらいました。同時に、提言をするだけではどうしても人任せにする気持ちが生まれ、「自分にとっても大切な事柄なんだ」という意識が薄れてしまうのではと考え、自分たちの「宣言」もしてもらおうことで当事者意識を持ってもらえるようにしました。

また、「提言」や「宣言」を、参加中高生たちの想いが本当にこもったものにするために、1日目・2日目で自分が今大切にしていることや、これからの自分への期待・不安をたくさんイメージしてもらいました。そんな自分のためを思うと、社会にはこんなことを求めたい、でもそれは求めるだけでは叶うものではなく、自分自身からのほたらきかけも必要だ、そうした考えのプロセスを経ることで、聴く人に届く「提言」と「宣言」が生まれてきたと思います。

このために、発表の内容は以下の項目に応える形でまとめてもらいました。それぞれの背景が垣間見えるようになっているかと思っています。

1. 私は、こんなとき、幸福感を感じます。
2. そんな私はこれから、こんな風に生きていきたいと思っています。
3. それと同時に、こんな不安も持っています。
4. そんな私は、社会に対しこんなものや機会を求めてみたいと思います。
5. そして、私は、こんなことをすることを宣言してみたいと思います。

どの発表も、三日間を通して深められていて、メッセージ性のあるものになっているかと思っています。「中学生、高校生がこんなことを感じ、こんなことを求めているのか。」と驚かれる内容もあることでしょう。彼らの心からの想いに耳を傾けていただければと思います。



- ◆名称：
平成26年度 鹿児島市 子どもミーティング開催事業

- ◆開催状況：
第1回／8月2日(土)10:00-17:00 於：教育総合センター（和室）
まち歩きから考える「豊かさ」探し

第2回／8月3日(日)10:00-17:00 於：鹿児島市役所講堂
他世代との対話から考える「未来」探し

第3回／8月17日(日)13:00-17:00 於：鹿児島市役所講堂
成果発表・中高生による提言と宣言

- ◆参加者：
鹿児島市内在住または鹿児島市内に通学する中高生14名
(男子・女子割合) 男子7名、女子7名
(中学・高校割合) 中学生5名、高校生9名
(参加校) 鹿児島大学教育学部附属中学校／城西中学校／谷山北中学校
鹿児島玉龍高等学校／鹿児島工業高等学校／鹿児島純心女子高等学校
鹿児島商業高等学校／鹿児島女子高等学校（順不同）

- ◆講師・コーディネーター：
石川 世太（ファシリテーター、株式会社マチトビラ取締役）

- ◆主催：
鹿児島市（市民局 市民文化部 市民協働課）

- ◆実施・運営：
特定非営利活動法人Social Brains（ソーシャルブレインズ）



◆講師・コーディネーター

石川 世太 (いしかわ せいた)

ファシリテーター／株式会社マチトビラ 取締役

＜略歴＞

東京のはしっこ生まれ、2011年4月に鹿児島へ移住。東京都立国立高校、東京農工大学農学部を経て環境・地域活性の分野でのサラリーマンの後、現在はファシリテーター・株式会社マチトビラ 取締役。若者の成長・モチベーション・チームワークづくりのノウハウは10年物。これまで延べ約26,470人、1,425時間のワークショップ・講義を担当。

- ・鹿児島県・宮崎県の中学校・高校の授業内ワークショップ講師多数回
(鹿児島：吉田北中学校、山田中学校、玉龍高校、錦江湾高校、志学館中等部・高等部 宮崎：宮崎大宮高校)
- ・宮崎大学にてFSDS研修講師（テーマ：ファシリテーション）
- ・文部科学省公認イベント「リアル熟議」講師（鹿児島8回、宮崎3回）
- ・鹿児島市内の大学の授業にてキャリア教育関連の授業講師

◆大学生サポーター 8名

有馬 桜子	鹿児島大学
内田 成美	鹿児島国際大学
川池 優大	鹿児島大学
白川 陽一郎	鹿児島大学 大学院
月足 恵	鹿児島大学
東條 康子	昭和女子大学
濱津 綾乃	鹿児島大学
銚之原 佳代	鹿児島大学

中高生との対話の経験を多く持つ大学生にサポーターとして入ってもらい、参加中高生たちと一番近くで三日間を過ごしてもらいました。結果として、中高生が互いに打ち解けたり、心を開いて本音や想いを発信することを大きく助けることができました。

4. 活動状況（3日間で取り組んだこと）



1日目 8/2(土) 「まち歩きから考える、『豊かさ』探し。」

◎教育総合センター、天文館（まち歩き）

10:00 良き3日間のための導入

今回のイベントの目的・背景と、3日間のおおまかな流れを共有しました。また、グループワークを円滑に行ったり、それぞれの率直な考えが発信されやすくなるよう、大学生スタッフと一緒に良き関係性づくりのためのゲームを行いました。



13:00 まちづくり探検へ

「自分はまちのどういうところに豊かさを感じるのか」に気づくために、まちの「豊かだな」と思うところ、「豊かじゃないな」と思うところを探しながら歩きました。



15:00 探検での気づきの共有

まち歩きで気づいたことをもとに、「私たちは、まちのどんなところに豊かさを感じるのか？」の問いを考える時間を過ごしました。加えて、自分が感じていることをより明確にイメージしてもらうため、「自分が嬉しい、楽しい、おもしろい、幸せと感じるのはどんなときか？」の問いを考えました。



17:00 1日目終了

疲れもあって、早めの解散となりました。参加中高生たちの表情がスタート時よりずっと明るく、楽しく雑談する姿が印象的でした。



2日目 8/3(日) 「他世代との対話から考える、『未来』探し。」

@鹿児島市役所 本館 講堂

10:00 良き1日のための導入

2日目再集合すると、少し緊張感が戻っていたりします。グループでの取り組みをやりやすくするため、リラックスした状態で多くの気づきを得てもらうため、今日1日どういう心持ちで過ごすのかをあらためて確認するために、スタートの時間も大事に過ごしました。



10:25 他世代ゲストとの対話の時間

将来のことを想像するのが難しい中高生たちが、「鹿児島で生きていく」ことのイメージをしやすくなるよう、20-60代の5人のゲストをお呼びしました。彼らがどんな人生を送ってきたのか、いま幸福を感じることはどんなことか、そして中高生に戻ったつもりになって社会になにか求めるとしたらどんなことを求めたいか、といった話をさせていただきました。会場を巻き込みながらおおいに盛り上がりました。「人生の師匠が見つかった！」という感想を持った高校生もいたほどで、他世代との出会いは大きな意味を持っているのだということが感じられました。



13:20 他世代ゲストからの気づきの共有

ゲストの生き方と、1日目に探った自身の幸福感とから、「自分これからどんな風に生きていきたいと感じているのか」「これからの自分に、どんな期待を持っているだろうか」「同時に、不安も確かにある。それはどんなものだろうか」といったことを、グループの中で大学生と一緒に語ることで探っていく時間でした。



14:50 提言と宣言の準備

いよいよ提言と宣言をまとめていく段階となり、ここまでで見てきた「自分の幸福感」「これからの自分への期待」「同時に持っている不安」を元に、「社会に求めてみたいこと」「そして、自分が宣言してみようと思うこと」を、グループの中で語りながら探りました。そこから、実際に発表をする内容に仕上げていくために、発表のおおまかなフォーマットに沿ってそれぞれで仕上げていきました。



17:00 2日目終了

発表内容の準備もかなり進み、熱を持っての終了となりました。信頼関係もでき、終了後もしばらく残って話をする生徒たちが多くいました。



3日目 8/17(日) 「中学生による、提言と宣言。」

@鹿児島市役所 本館 講堂

13:00 良き1日のための導入

台風の影響で、当初3日目を予定していた8/9(土)から1週間遅れての開催となりました。2週間前の感覚を呼び覚ましてもらうことと、いよいよ発表ということで高まる緊張をほぐすため、3日目もスタートの時間を大切にしてみました。

13:25 提言と宣言の準備

提言と宣言の発表が、参加中高生たちにとって、想いをこめられ、「今までで一番楽しめた発表だったかもしれない。」と思えるような体験となるよう、時間いっぱいまで、リハーサルをしたりグループの大学生からアドバイスを受けて修正したり、を繰り返しました。予定の時間になった段階で「あと10分ほしいです!」という声があがるなど、発表をよりよいものにしたいという想いを持ちながら取り組んでいることが伝わってきました。

15:00 提言と宣言 発表

いよいよ発表の時間です。想いをこめて、楽しみながら発表するために、聴く側になったときもたくさんの反応をするなど、一緒に発表をつくっていく意識の共有をして、始めました。どの発表も表面的な事柄だけで終わらず、内容があり、メッセージ性も高いもので、毎回大きな拍手が起こりました。一人一人の発表後に「今の気持ちは? 楽しむことはできた?」と聴くと、全員が「楽しめた。発表で自分の意見を伝えることができて良かった!」といった感想を伝えてくれました。本当に、多くの方に聴いていただきたい、素晴らしい発表でした。

16:10 3日間の振り返り

3日間、非日常な空間で、楽しく・濃い時間を過ごすことができたことを振り返り、「よくできたと思うこと」「できるようになったこと」「自分が好きなこと、得意なこと」「苦手なこと、できるようになりたいこと」などをイメージしてもらう時間でした。また、グループ内のメンバーと記入シートを交換し、「あなたはこんなところがいいね!」「こんなことをしてくれてありがとう。」といったメッセージを贈り合うこともしました。メンバー同士の思い入れが強く、時間いっぱいまで記入をし合っていたのが印象的でした。

16:45 最後に全員でひとことずつ

今この場で参加中高生たちがどう感じているのかを共有するため、「今の率直な気持ち」をひとことずつ話す時間でした。元々人前で話すのがそこまで得意でない人も多く、こうした「その場で考えて話す」、ということは少し難易度が高いものの、全員、今感じていることを話してくれました。

17:00 3日目も全行程が終了

余韻にひたって話し続けたり、先ほどのシートにメッセージを贈る続きをしたりと、帰るのがもったいないという声も出て、なかなか解散とはなりませんでした。

今回、提言と宣言を社会に発信してもらうという今回の彼らの役割をしっかりと果たしてもらった上で、彼らの中にも変化のきっかけや大きな成長があったように感じられました。





いろいろなひとが自分のことを話して人の将来や夢を支え、希望をもたせることができる場を求めたい。

私は、人と支えあう、めぐり合う、考えを話し合えることに幸せを感じます。

そんな私は、これから自分のことを誇りをもって話せる人になれるように、頑張っていていきたいと思っています。

それと同時に、私は「将来にとって大きなとり返しのつかない失敗をしてしまうのではないか?」「努力をおこたってしまうのではないか?」などという不安もあります。

そんな私は社会に対して、今回のような、人の将来を支える希望をもたせることができる機会を求めてみたいと思います。たとえば、自分が進路で迷っていて不安でいっぱいのに、誰でもいいから「人生はそんなに暗くない、自分もそうやって生きてきた。」と優しく語ることができたなら、どれだけ不安は晴れるでしょう。私も今回の他世代との会話を通して自身の不安が晴れました。

このようにいろいろなひとが自分のことを話して人の将来や夢を支え、希望をもたせることができる、そのような場を求めてみたいと思います。

そして私は、支え合う、めぐり合う、考えを話し合うサイクルの中で、自分の経験や気持ちを伝えていき、それを自分だけでなく、多くの人につないでゆくことを宣言してみたいと思います。

多くの方と巡り会えて、今日まで交流ができたことが嬉しかったです。提言と宣言、みなさんそれぞれあったと思います。私はそれをつかんでいきたいと思っています。みなさんもつかめるようにがんばってください。



学校以外にも、自分が経験したことを伝え合える場をもっと増やしていくべきだと伝えたい。

私は、人の笑顔を見たときや、自分の好きなことに良い反応があったとき、幸福感を感じます。

私はこれから自分の生き方や経験したことを、世代を問わず多くの人に伝えたいと思います。私は社会同好会という同好会に入っています。同好会を通して様々な活動に参加してきました。この子どもミーティングへの参加も、同好会の活動の1つです。この子どもミーティングに参加して、自分の考えたことを同世代の人たちだけでなく、他世代の人たちに発言することができました。また、発言することの大切さ、周りの人の話に耳を傾けることの大切さを改めて学びました。

自分の考えたことを伝えたり、周りの人の考えから学んだりすることで価値観を共有することができることを感じました。

しかしそれと同時に、言う人と聞く人がお互いに真剣に話し合えるのだろうか。また、お互いが程よく緊張感を持ち話し合える雰囲気を作ることができるのだろうかという不安を感じます。

そんな私は社会に対し、学校という1つのグループだけでなく経験したことを伝え合える場をもっと増やしていくべきだと伝えたいです。

そして私は、同世代他世代問わず、人とのつながりを大切にすること、また、経験してきたことを伝えたり話し合える雰囲気を作るための力を持つことを宣言します。

最初はなじめるか不安でとても緊張していたけど、自分の言いたいことも言えて、他の人の話もたくさん聞けて、学ぶことも多くて、自分のこれからの生活に活かしていけると思いました。ありがとうございました。



幅広い世代の人の意見や考え方を共有できる場所をつくってほしい。 相手の考えにふれることで、新しい世界が拓けてくるはずです。

私は、日々の中に隠れている何気ない幸せに気付けたとき、幸せを感じます。例えば、夏の雨のにおいであったり「あの日の空と同じ色だなあ」と空を見上げた時であったり、朝の目覚めがよかったり、放課後の教室に7月の光が差し込んできたとき、「ああ、幸せだなあ」と感じます。そんなささいなことに気付くことができれば、世界はこんなに豊かなものにあふれているのだと知ることができるのではないのでしょうか。

そんな私は"自分らしくあること"をこれから大切にしていきたいと考えます。それは、自分だから気付くことのできる日々の変化や、人の思いがあると思うからです。自分らしくあることで、自分の為にも、人の為にもいろんな世界が見えてくる。それはとても素敵で、面白いことだと思います。

ですが、そう思う反面、自分自身を出すことはすごく怖いことだとも思います。自分の中でふと思ったことを口に出したとき、「それは違う」「変わった考え方だね」「あなたは子供だからわかっていない」…そんな言葉を浴びせられ、頭ごなしに否定されることはとても苦しいです。「これは自分自身の本当の気持ちだろうか」「今の自分に受け入れられるだろうか」「私は私のままでいいのだろうか」そんなことに敏感になってしまう自分がいます。

そこで私は街の中に、人の意見や考え方を共有できる場所をつくってほしいと思います。それも、できるだけ幅広い世代の人が活用できる場所です。例えば、街中に目安箱を設置し意見を気軽に出せるようにします。その意見について何か考えがあったり、言いたいことがある人を集め、討論する。そんな場所がもし作れたなら、たくさんの思いに気付くことができるのではないかと思います。自分の考えだけでなく、相手の考えにふれることで、また見えてくるものは違ってくるはずです。新しい世界が拓けてくるはずです。自分たちにできること、その一歩を踏み出すための場所があったなら、本当の意味での「みんなでするまちづくり」ができるのではないのでしょうか。

そのために、私は自分自身を見つめなおし、人の考えを素直に受け入れることができる人になりたいと思いました。人と人が歩み寄ることから、「まちづくり」ははじまるのだと私は考えます。自分の世界だけをおしつけるのではなく、広い視野で物事を見つめていくことを、私は宣言します。

一つのものごとに対して、みんなで意見を深めていくっていうのを、こんなに真剣に何時間も何日も取り組むっていうのは初めての経験で、すごく刺激になりました。こういう場っていうのがほんとに少なく、経験出来てよかったなと思います。今後、自分がちょっとだめになりそうになったとき、ここであったことを思い出して、力になればいいなと思っています。

感謝を伝えるきっかけづくりをすることで、 感謝の気持ちを素直に伝えられる鹿児島になってほしい。

私にとって幸せとは、日々の生活の中で、友達や家族と話を共有できることが幸せだと感じます。

そんな私は感謝の気持ちを持って生きていきたいと思います。

日々を過ごしている中で人との関わりがうまくいかないことがあります。その時、感謝の気持ちを伝えたら、仲が深まるのではないかと考えました。そして、日々の小さなことでも感謝できることの大切さに気付くことができると思います。

そんな私は社会に対し「ありがとうのたね」を求めてみたいとおもいます。ありがとうのたねとは、語呂合わせで3月9日、サンキューの日に、感謝の気持ちを伝えたい人に花のたねを送るものです。このありがとうのたねで、言葉にしづらい感謝の気持ちを伝えるきっかけになれば良いと思い、考えてみました。

中学生・高校生になると、心が不安定になったり、反抗的になることがよくあります。そこでこの、「ありがとうのたね」の取り組みがあつたら、少しでも会話が増えるはずです。そして、種を植えれば芽がでて成長し花が咲きます。そうしたら、感謝の気持ちを伝え合う人が増えると同時に街に緑がふえ、環境問題の改善にもつながると思います。

私は、このような「ありがとうのたね」のような取り組みを求めるとともに、普段から感謝の気持ちをもって生きていくことを宣言してみたいと思います。

このきっかけによっていつか私だけでなくより多くの人が感謝の気持ちを素直に伝えられる鹿児島になってほしいです。

みんなと仲良くできて、子どもミーティングに参加してよかったなって思いました。楽しかったです、ありがとうございました。

自分が将来なりたいと思う職業の、 仕事の体験をさせてくれる機会がほしい。

私は、だれにも邪魔されずに、のびのびと、自分の好きなことをしている時に幸福を感じます。それは、妹がいるので、邪魔をされてなかなか自分の好きなことをできないからです。

私は将来医者になりたいと思っているので、大学の医学部を卒業して、小児科で働きたいと思います。一度幼稚園にボランティアとして行ったことがあって、小さい子の世話をし、その時に興味がわきました。

でもまだ働くという実感がわからないので、とりかえしのつかないくらい大きな失敗をして、患者さんの命にかかわるようなことをしてしまいそうなので心配です。また、医者はどのような仕事をしているのか、まだよくわからないのも心配です。

そんな私は社会に対し、医療関係の仕事の体験をさせてくれるイベントに参加する機会を求めたいと思います。

そのかわり私は、絵をかくことが得意なので、環境問題をうったえるポスターを書こうと思います。なぜ、環境問題についてなのかというと、今回の1日目にアーケード通りを歩いた時に、ほかの道よりも植物が少ないと感じたからです。私がかいたポスターを見て少しでも植物がふえるといいと思います。

自分の意見を人に言うのが苦手だったので、今回はいつも以上に人に伝えることができたから、良かったなと思います。ありがとうございました。



環境改善活動をもっと積極的に行っていて、 自然豊かな鹿児島を守ってほしい。

私は、自然の中でいきいきと生きている動物達を見ている時、幸福感を感じます。私は、幼い頃から自然とふれあい、他の動物達が生きている場にいると、自分も生きている実感を得ることができ、自然のすばらしさを体感してきました。

他の動物と共存するためには、自然豊かなことがまず最初の条件になると私は思います。私は人間だけでなく、人間以外の動物や植物も、みんなが行きやすい環境が欲しいです。しかし、今技術の進歩などにより街の開拓が進んでいく中で、どんどん自然がなくなっていて、このままでは人間以外の動物が生きていくことのできる環境がなくなってしまうのではないかと、とても不安に感じます。

近年、山が切り崩されて住所や食料である植物や虫達が減ってしまったことにより、山から動物達が降りてくるといったニュースが増えています。これは私たち人間が、自分の勝手な都合で自然を減らしていった結果であると思います。

私はこういった自然を破壊する行為が嫌いです。しかし、大嫌いと言い切れないのは、私も結局は何らかの形で自然を破壊する行為に携わってしまっているからです。例えば、遠方に出かけるとします。歩いて行くには遠すぎますし、自転車で行くには時間がかかりすぎます。そんなとき、私は車や電車、はたまた船や飛行機に乗ります。そうしたらすでに、その時点で環境破壊に携わってしまっているのです。これが現実なのが悲しくてなりません。しかしその反面、自然を守ろうとする活動も増えています。こういった自然を守る活動が増えれば、いずれは自然と人工物のバランスのとれた社会環境になると思います。私は自然を守ることが、すべての生き物が生きのびることのできる環境づくりであると思います。もしこの世界が、人間だけが生きることのできる世界になったら、人間は生きていくことはできないでしょう。私たち人間が生きることができるのは、他の動物達がそれぞれの役割をしっかりと果たしているからです。

みなさんもお存知の通り、植物は酸素を作り、動物はその酸素を吸って生きています。また、植物は地面から養分や水を吸収して生きています。その養分を与えるのは、それぞれの役割を終えて死がいととなった動物達であるはずですが、人間はこの自然のサイクルからはずれつつあります。人間が自然のサイクルからはずれることで、他の生き物にも影響が出てしまいます。これは避けるべきです。私はこれ以上、人間のせいで絶滅してしまう動物達を見たくはありません。

私は、人間が生きていくためにも、すべての生き物が生きていける自然を守る活動をもっと積極的に行っていくべきだと思います。ここ鹿児島市でも、年々山が削られたり歩道の木が無くなっている光景を見かけます。自然豊かな鹿児島を守るためにも、環境改善活動をもっと積極的に行っていくほうがよりよい街になっていくのではないかと私は思います。

そこで、私は環境改善活動に積極的に取り組んでいくことをここに宣言します。今の現状に満足したり、今さえ良ければいいという生活はやめて、これから先のこと、私たちの子どもや孫の代、ずっと先の未来まで幸せな生活を送ることができたら、それ以上の幸福はないと思います。みなさんも未来のことを考えて生活をしてみてはいかがでしょうか。

本当に、この三日間で得たものはすごい濃いものだったと思います。これから先の生活にも活かせるものもあったと思うので、活かしていきたいと思います。ありがとうございました。



人と関わるときに一步踏み出せるように、今回のような同世代と交流するきっかけになる機会を増やしてほしい。

僕が幸せを感じる時は、音楽をきいたり、楽器を吹いて吹奏楽部の部員たちと曲を仕上げる時と、人といろいろな会話をする時です。吹奏楽で一曲仕上げるのは実はとても大変なことで、4～5分くらいしかない曲でも1日以上かかることも少なくありません。だからこそハーモニーなどをきれいにして一曲できあがったときはすごく喜びを感じます。人との会話も吹奏楽には重要で、意見を出し合い、曲のイメージをつくることで、気持ちをそろえて演奏することができ、自分の意見やほかの人の意見をてらしあわせたり比べたりすることで、新しい発見がありとても楽しいです。

そんな僕は、今やっている吹奏楽を続けていきたいし、人との会話によって新しい発見があるので、新しい人との出会いの場を大切にしたいです。吹奏楽は一人ではできないので、新しい人との出会いがあれば一緒にやっていける仲間が増えるのではないかと思えるからです。

希望があるから不安も出てくると僕は思います。僕の不安は初対面の人と話すのが苦手なので、いざというときに一步踏み出せるか？ということです。人との出会いがあっても一步踏み出さなければ、相手とのコミュニケーションをとることができずに終わってしまう。また、悪い印象をいきなり与えてしまわないだろうかといった不安があります。

少しでも多くの体験や経験をすることで、その不安もやわらいでいくと思うので、今回の子どもミーティングのような、年の近い人たちとの交流のきっかけになるようなイベントを増やして欲しいです。それに加えて、イベントの詳しい内容を知れるようにしてほしいです。どんなイベントなのかを知れることで、参加しやすくなり、積極性も増すのではないかと思うからです。ですから僕は、多くの人と交流できる機会を求めてみたいと思います。

そして僕は、多くの人との出会いができる環境をつくるには、鹿児島が住みやすい環境であることが大事だと思います。自然が豊かな鹿児島を維持し、さらには活性化していけるようなことをしていきたいので、自然を増やしたりするようなボランティア活動に参加していきたいと思います。

他の世代の人の話を聴くことによって、自分の将来に対する考え方が変わりました。ありがとうございました。

私の夢は、簡単になれるような職業ではありません。 学校の職場体験では体験できないような仕事の体験がしたいです。

私はスポーツをすることが大好きで、これまで様々なスポーツにチャレンジしてきました。テニス、サッカー、水泳、バレーなどです。たくさんの方ができるようになった時に私は幸せを感じます。

私はソフトテニス部に所属していました。私が後輩の時は、先輩が怖くて、自分の意見を言えず、先輩になった時は、後輩に嫌われたくなくて、自分の意見を言えませんでした。だから、私は良い先輩後輩関係がこれからも実現できるか分からないので、不安です。

私の夢は簡単になれるような職業ではありません。私は将来、水族館で働きたいです。なので私はそういう自分のなりたい職業の体験をもっとたくさんつくってほしいです。学校の職場体験では体験できない職業がたくさんあります。例えば警察官や消防士などの仕事です。仕事はたくさんあるから、いろいろな体験を試してみたいです。いろいろな職業や仕事内容をくわしく知りたいです。だから沢山の種類の仕事を体験する場がほしいです。また、学校の職場体験だけではなく、土曜日・日曜日などの休日を利用した職場体験にして、体験の数を増やして欲しいです。

そして私は、職場体験で学習したことを社会に活かせるように努力することを、最初に述べた自分の伝えたいことを先輩後輩関係なく、しっかり伝えるようにすることを宣言したいと思います。

最初すごく不安だったけど、みんな仲良くなって、本当に、子どもミーティング来てよかったなって思いました。ありがとうございました。



国内外のアーティストが鹿児島でコンサートを行ってくれば、街も賑やかになるし、鹿児島のいいところも知ってもらえる。コンサート会場の数を、もう少し、もう少し増やしてもらいたい。

私は好きなことをしているときがとても幸せです。私は好きなアーティストの音楽を聞いている時が一番楽しいです。

私は将来的に、明るくて、優しく、心が清くて、かわいい人になりたいです。

それと同時に、こんな不安を持っています。将来自分がいる環境が暗くて、つまなくて、周りの人間がみんなイライラしてる、みたいな、そんな変な雰囲気のところずっといると、憂鬱になると思います。だから、ちょくちょく、ストレスを発散しなければならないし、そもそも、そのような悪い雰囲気を作ってはならないと思います。そして、自分の趣味の時間を大切にしていきたいと思います。

そんな私は市に対してこんな要望をしたいと思います。私は音楽を聴くことが好きです。そして、私には好きなアーティストがいます。国内、国外のアーティストが鹿児島に来てコンサートを行ってくれば、私も楽しい気持ちになるし、街も賑やかになるし、おっかけてきたアーティストのファンの方も鹿児島に来ていいところを見つけてもらえるきっかけになると思います。肝心なのは、そのアーティストが行うコンサート会場の数の少なさです。もう少し、もう少し増やしてもらいたいです。

その代わり私は、鹿児島に初めて来た人々に、鹿児島のことや、良い所をわかりやすくまとめておくことを宣言したいと思います。

みんな優しくしてくれたし、楽しかったから、終わってしまうのがちょっと悲しいなって思いました。またこういうイベントがあれば、このメンバーとか、また違ったメンバーも含めてでも、集まれたらいいなって思いました。

大人になったら一人で生きていかななくてはならない。 そのための予行練習ができる機会がほしいです。

私は人とのコミュニケーションがとれて、とても幸福を感じることができました。

そんな私は、これから普通に生きる中で、ポジティブに生きていきたいです。自分は、まだ小さいころにネガティブになってしまって、それから高校に入るまでずっとネガティブでした。そして今回の子どもミーティングに参加して、チームで大切にしたいこととして挙げた「ポジティブ」を大切にしたいと強く思いました。だから、これからポジティブに生きていきたいです。

それと同時に、これから普通に生きていく中で、大きな壁につまづいてしまうのじゃないのかな、ということが不安です。例えば、自分とは正反対の人と向き合わなければならない、といった壁です。そんなとき、今回で学ぶことができた、幸福なコミュニケーションでその壁を壊せたらなと思いました。

そんなぼくが社会に対してお願いしたいこと。今まで自分たちは小さなころから、義務教育でずっと行政のお世話になってきました。でも、大人になったら一人で生きていかななくてはならないから、その予行練習ができる機会がほしいです。

同時に、社会に頼るばかりでなく、自分ができることとして、他の高校との交流戦とか、勉強での対決、会話をする機会などの交流の機会をつくることを考えてみたい、という宣言をしたいと思います。

いろいろと最初のころは不安だったんですが、こういう優しい人たちがばかりで良かったです。今回一緒だったみんなと街で出会えたら嬉しいです。



自由な意見を言いやすく、それが活かされる社会であってほしい。 今だから学べることを学ぼうという意識を学生につくってほしい。

僕が幸せを感じる時は、生活を送る中で、当たり前の事を当たり前のようにできる時、それと、充実した一日を送れた時です。

そんな僕は、これから人の役に立つように生きていこうと思います。なぜかという、「僕らの子どもの代、その子どもの代と未来にはばたく人材を自分で育てていきたい。」そう思ったからです。また、これからの行政を動かせるチャンスがきっと来るはずなので、そのために、一人一人を充実させたいと思ったからです。

それと同時に、自分が嫌われているのに、人の役に立つ仕事をしていいのかという不安があります。また、そういう仕事に就くためには、それなりに学力も必要だと思うからです。

そんな僕は、社会に5つの事を求めたいと思います。

1つ目は、学生の学習意識の改善をしてもらいたいことです。小学校の頃僕は、「なんで学習をするの？」という疑問がありました。「学生だから勉強しないと・・・」みたいな意識がみんなあると思います。ですが、学生だから学べることもあると思います。なので、その「学生だから・・・」を学生にとって前向きな意識にできるように改善してもらいたいです。2つ目は、市の最も栄えているはずの天文館についてです。天文館ではいろいろな店がずらりと並んでいますが、外国人などの人は、規則性を見つけられず困ります。そんな事を解消していくために、エリアを決め、規則性を作ってはどうかと思いました。そうすると、目当ての店がすぐに見つけることができるのでいいと思いました。

3つ目は、会社の組織化で、自分の意見を押し込められることについてです。人の意見によって、その会社の運命が決まります。すばらしい意見でも、組織化により、自由な考えを表に出すことができなくなっていると思ったからです。

4つ目は、このような、子どもの意見を行政に活かす会議をもっと増やしてもらいたいことです。増やせば、きっと行政もよりよくなっていく鍵が見つかると思っているからです。

5つ目は、行政が市民にもっと密着してほしいことです。行政は、市民の意見でもっと市を変えていけば、市民から慕われながら、すばらしいまちづくりができると思ったからです。

そして僕は、求めた事に対して、一、学習意識の改善を学生同士で行う。二、街に積極的に外出する。三、学校内でしっかりと自分自身の意見を自分の言葉で話す。四、自分たちの意見をしっかりと言う。また、こういう行事があることを、みんなに知らせていく。といったことをできるように宣言したいと思います。

両親や先生に「どうしても行きたい」って伝えて、参加することができて良かったなと思ってます。提言と宣言をまとめるのは意外と難しかったです。三日間ありがとうございました。

叶えられる夢の幅を大きくしてほしい。 他の地域の人と、価値観や意見を交換する機会がほしい。

私は人の役に立つことや、人の笑顔を見ることで幸福感を感じます。
私は人に夢を与えられるものをつくれるようにしていきたいと思っています。

それと同時に、夢が壊れてしまったり、理想像が崩れてしまったりするのではないかという不安を抱えています。

鹿児島では叶えられる夢に限りがあると思います。

私の夢は映画製作に携わることです。

鹿児島は、東京とくらべ、映画製作の技術も機材もとても優れているとは言いきれません。

また鹿児島では、映画製作に携わる機会はほとんどありません。

それらの点で、鹿児島では叶えられにくい夢が多くあると考えました。

私が鹿児島に求めることは、夢の幅を大きくしてもらうことと、県外や他の地域の人と、価値観や意見を交換して、多くの夢を叶えられるようにしてほしいことです。

私は人の夢に大きく影響を与えられる人になりたいことと、人の相談を聞いてあげられる人になりたいです。

親子関係や友好関係、その他でも小さな悩みや迷いを持っている人は多くいると思います。

中高生や親もそんな悩みを聞いてもらえる人を求めていると思います。

そのために自分の考えだけでは乏しいところがあるので、子どもミーティングのような、同世代や他世代の人と価値観や意見を交換できる場に参加していきたいと思っています。

いろいろと悩んだりとかしたときにこの体験があったので、悩みとかがなくなって、とてもいい経験になりました。これから先も壁にぶつかることがあると思うので、この体験で得たものを確認していきたいと思っています。

幅広い年代との交流の機会を充実させてほしい。 市内の高校から代表者が集まって、 力を合わせてなにかに取り組めるような機会がほしい。

ぼくは将来ちゃんとした自分を持っていながらも、他の人と協力してよりよいものを創造できるような幅広い知識を持っている人間でありたいと思っています。

そんなぼくがこれからの鹿児島に望むものは2つあります。

1つめは、今いろんなところで行われている、集団読書会や、同じような趣味または全く違う趣味を持った幅広い年代との交流の機会を充実させてほしいということです。それはなぜかという、ぼくは本を読んだり、音楽を聴いたりするのが大好きなのですが、その読んでいる本や聞いている音楽があまりみんなに知られていないので、周りの人と、自分が興味がある話題や好きなことについて話すことができず、周りとの話題を合わせていて、あまり楽しくない日常を過ごしている現状があるからです。なので、そうした機会があると、自分の知識や他の人の知識を深めることになり、他の世代とのつながりにもなると思います。そしてなにより、自分が好きなことを他の人と共有できるので、ぜひやってもらいたいと思っています。

2つめは、鹿児島市内にある高校から代表者を出しあい、鹿児島をよりよくするための意見を交換したり、各学校の行事などの日取りを確かめ合ったりする機会が欲しいです。そうしたら、他の学校と協力して、一つの学校だけではできないことも、いくつかの学校が協力すればできるのではないかと思ったからです。これは、鹿児島市内にせっきゃく高校だけでも20校以上の学校があるのに、そんなたくさんの高校同士で、なにか交流する機会があまりないなどと思って、なぜ協力しないのかと思ったからです。各学校には少なくとも900人前後の生徒がいます。一人ひとりの力ではあまり大きなことはできないと思いますが、沢山の人が力を合わせればどんなことだってできると思います。

同時に、10代だけでは、お金や場所、そういう機会を作るための時間など、中高生だけではどうしても力が足りなくなることがあります。そういうときには大人にすっと手を差し伸べてもらって、力を貸してもらえたらと思います。

そして、こうやって中高生が大人に力を求めることによって、大人もいっぱい協力してくれるようになって、幅広い年代の人たちと協力することによって、ゆくゆくは鹿児島全体を盛り上げていくことにつながるのではないかと考えています。そしてぼくは自分でも高校を卒業するまでに、大人の手も少しは借りながら、高校生が主体となった、なにか、伝統になるようなことをやりたいと思っています。

最後にみんなの前で発表することができて、普段自分が考えていることが少しでも伝わったことが嬉しいです。宣言どおり、高校3年間が終わるまでにはなにかしたいと思っています。そのときにはみなさん、よろしくをお願いします。



世代や性別関係なく交流できる場所をつくってほしい。
そしてその情報を、もう少し僕達に分かりやすく伝えてほしい。

私は今回の子どもミーティングで、同じグループになった仲間から、「君は、人を笑わせることができるよね。」と言われ、人を笑顔にできることに気づくことができ、とても嬉しかったです。自分の、相談に乗ってあげる、とか、おもしろいことをしてあげるとかの行動で、みんなが笑顔になってくれる時、そんな人達と一緒に笑顔になれることが、自分の中で幸福を感じる時だなあと感じます。

私はこれからも、人の相談に乗ってあげたり、一緒に話をして盛り上がったりして、もっと人に笑顔や幸せを与えられる人になりたいと思います。自分の行動で少しでも、「くすり」とでも笑ってくれれば良いと思います。

しかし、もしかしたら、自分のことが嫌いだったり、相手が不機嫌になることをしてしまったりするかもしれません。そんなとき、笑顔や幸せを与えることを拒絶されそうで、怖いと思うこともあります。

そんな僕がする提言は、笑顔や幸せを与えられるような、人と人が交流できる場所、世代や性別関係なく交流できる場所を作ってほしい、そういう場所についての情報をもう少し僕達に分かりやすく伝えてほしい、ということです。

私はこれからも、笑顔や幸せを与えられるように、人と人が交流できる場所、そういう場所に、自分から出向いて行きたいと思っています。自分が縮こまって行動を起こさなかったら人との交流も何もできません。なので、自分から積極的に行動していきたいと思っています。

みなさん、ノリがよくて、とてもみんなと楽しみなからこの三日間を過ごすことができました。本当に三日目来て良かったです。またなにかご縁があればみんなに会うんじゃないかなって思います。ありがとうございました。





【提言の内容について】

当提言書の冒頭で述べた「提言と宣言のコンセプト」を元に、参加中高生一人一人から発表していただいた提言は、次のように大きく3つに分類できるかと思えます。

1. 年代、性別、所属が多様な人たちと対話できる場がほしい

今回の子どもミーティングに参加した中高生は、他の学校の生徒・大学生サポーター・運営側の大人たち・他世代ゲストの皆様・市民協働課の皆様と、関わり方を丁寧にデザインされた場で関わる機会を得ました。そのこと自体、参加中高生にとって非常に楽しく価値のある体験だったようで、そこから、「こうした場がもっとあったらいいのに。」という思いにつながったのだと思います。参加中高生たちの提言や、イベント中に話をした内容から、こうした場に彼らがなにを求めているのかを、以下のようにまとめました。

1) 大人との関わりを持てる

- * 仕事・職業について、その人の背景も合わせながら知ることができる。
- * これまでの経緯とこれからの展望を聴くことで、自分の進路を考える上でのロールモデルができる。
- * 今の価値観、幸福感を聴くことで、「大人もそんなことで一喜一憂したりするんだ」と親近感を感じたり、「そんな感じ方・考え方があるんだ、すごい。」と人間性を高めるヒントなどをもらうことができる。

2) 同世代との新しいつながりができる

- * 価値観を共有することで、自分の価値観を認めることができたり、新しい価値観に触れて視野を広げることができる。
- * 日常の楽しさ、苦しみの共有をすることで、自己への肯定感が高まったり、苦しく感じていることが和らげることなどができる。
- * 夢、やりたいことを気兼ねなく共有することで、自分がやりたいことをより明確にすることができたり、「一緒に取り組むことができたら良いのでは」といった協働の素地を育むことができる。

3) 他者と、互いを大切にしながら関わるができる

- * 否定せずには聴いてくれ、一緒に考えてくれる。
- * 聴いてもらえるから、自由に意見が言えるし、言いたくなる。
- * ただ楽しく話すだけでなく、目指すところがあり、一緒に真剣に取り組める。

現状、小中高生を巻き込んだ事業は、不測の事態がないよう、準備にかかるコストが大きめになりやすいように感じます。今よりも、開催する側、関わる大人たち、参加する生徒たちにとって負担や時間的拘束は少ないが、機会としては有意義であるような場を数多く開いていくこと、またその開催情報の周知が求められているのではないかと思います。

2. 自分の夢、なりたい職業について知ったり、体験する機会がほしい

なりたい職業がある人にとっては、それが実際にどういう仕事なのかを知って、そこに向けて勉強などの準備をしていきたいという思いがあると思います。なりたい職業がない人にとっては、「こういう仕事をしたい」と思えるものを探す機会がほしい、という思いがあると思います。現在既にある、学校単位での職場体験や、職業人と話す機会をつくるといった取り組みの質と量を充実させることと、規模は小さくともより実践的な内容の職業体験ができる機会をつくるということが求められているのではないかと思います。

3. 他の学校と交流・連携した取り組みをする機会がほしい

「中高生の今だからできること」に対して熱い思いを持っている生徒たちにとって、他の学校の生徒との交流・連携はワクワクできる事柄のようです。「こういうことができたらいいよね」といったことを一緒に考え、実行できる仲間がほしいという声もありました。既存の仕組みを活かすとすれば生徒会との連携が考えられますが、生徒会に所属していなくても意識の高い生徒はいるはずですので、生徒会の生徒と、関心のある有志の生徒が集まれるような場をつくるという方法が考えられます。プログラムとしては、参加中高生の研修の意味合いだけでなく、他の学校との連携をつくり、事後もやりとりが続いていくようなことが意識されたものにとると良いかと思えます。

【本年度工夫したポイントと展望】

今回、子どもミーティング開催事業の運営をさせていただくにあたって、以下の3つの点を大事にいたしました。

＊「横のつながり」

参加中高生の、強い横のつながりをつくりました。

＊「ナナメのつながり」

対話の経験を持つ大学生を、中高生とすぐ話せる距離に配置しました。

＊「対話の手法」

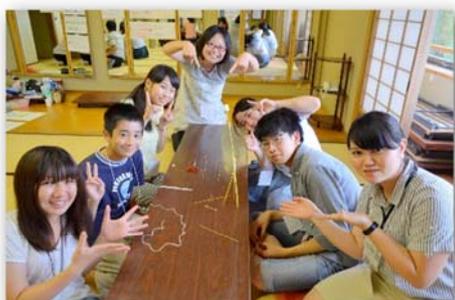
全体を通して、思ったことを言いやすく話し合いの成果が出やすい対話の手法を取り入れました。

これにより、参加中高生にとって楽しくて学びが多いと感じられる時間にし、「提言と宣言」の質を高めるとともに、参加中高生の「市民参画」の素養をより醸成できるようにしました。

今回の子どもミーティングでは、この方法がとても良く適合したと感じております。市の事業の中で、小中高生が参加するような企画の場合には、全てでなくとも、こうした方法を取り入れていくことで、事業の価値をより高いものにすることができるのではないかと考えます。市役所側だけでそうした方法をとっていくことが難しい場合には、民間の主体との協働を考えていくことが望ましいかと思えます。今後も、子どもたちにとって良い機会が提供されていくことを願っております。

講 師：ファシリテーター 石川 世太

運営組織：特定非営利活動法人ソーシャルブレインズ 代表理事 末吉 剛士



かごしま 子どもミーティング

